

「師走」に師は走らなかつた!?



昔こゝろの暦しよめいで十二月を師走しわすと言いいます。師しはお坊ぼくさんのことで、お経きやうを上あげるのに西にしへ東ひがしへはせる(速すみく走る)月つきなので「しはせ」と言いったのに由来きよらいするとされます。慌あわただしい年末ねんまつの雰ふん囲い気きが目めに浮うかぶようすね。でも、この由来きよらいが本ほん当たうかどうかは分わかりません。

シワス(シハス)という言ことば葉はを説せつ明めいするたために、後のちから作つくられた説せつららしいのす。確たかな根こん拠きよにもとづいて突つき止とめたのすはなく、音ねの連れん想そうからこじつつけられたのす。よく寝ねるからネコ、足あしをずぼぼと入いれるからズボンなどというのと似にた発はつ想そうです。言ことば葉はの起おこり(語ご源げん)につづいては分わからないものも多おく、ななかな納なつ得とくの行しやうく証じやう拠こにはたどたり着きません。けれど、日ひ頃ころ使つかつている言ことば葉はが、ななせ生なまれたのか知しりたいという人ひと々の思おもいは、ささまざまな説せつを生なみ出だしてきました。

睦むつき月つき(一月)は、正ま月つきはみみんなで睦むつきままじく(仲なか良よく)するからも言いいます。正ましいかどうかは別べつとして、昔むかしの人ひとがその言ことば葉はに寄よせた思おもいが伝つたわつつてくるようすです。

理屈りくつを付つけたり、こじつつけたり

「師走」の語源が、僧侶がお経をあげるため、「馳はせる」(駆かける)月つきであるという解かい釈せきは、平安時代にはすでに知しられていました。旧曆十二月には、いろいろな仏ぶつの名な前まへを唱なえて、その年としにした悪あくい行ぎやういを悔くい改かめる仏ぶつ名な会かいという行ぎやう事じがありました。僧侶が忙いそしいのはそのためだという理り屈くつを付つけたようす。

「師走」には、ほかに「年果ねんぐつ」「為果ゐぐつ」など、「果はてる」(終おわる)と関かん連れんづづけた語源説もあり、どれが正ただしいかは分わかりません。いずれも、確たかな証せつ拠こがあるわけはなく、主しゆに音ねの連れん想そうからこじつつけられた解かい釈せきです。このような解かい釈せきを、語源解ごげんかい、民間語源みんかんごげん、通俗語源とくじふごげんなどと言いいます。「くだる」の例れい(211ページ)もそうすです。

鍋物などに欠かかせないのがポン酢ぽんすは、ももともとオランダ語のpons(ポンス=ダイダイなどかんきつ類の搾り汁)がなまつたものす。酸すいっぱいから酢すだ、という語源解ごげんかいから、ポン酢と書かれるようになつたものす。

明治時代、初はめて鉄道が敷きかれたころ、一いっ緒しよにステーションという外がい来らい語も入いつて来きました。これをステンシヨと発音し、汽車がとまる所ところだから「ステン所」と解かい釈せきして、そう書かいた人ひともいたようす。これも語源解ごげんかいの一いっ種しゆでしよう。